

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: 福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」

和文タイトル: 福島県における「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」

ユニットセンター(UC)等名: 福島UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: 福島県保健衛生雑誌

年: 2016 月: 3 巻: 27 頁: 28-32

筆頭著者名: 橋本 浩一

所属UC名: 福島UC

目的:

多くの環境化学物質の子どもへの健康影響に関する科学的知見は、十分に明らかにされておらず、子どもの健康と環境の問題の重要性が国際的にも認識されている。エコチル調査の福島県での調査実施状況を報告する。

方法:

福島県での調査は、平成23年1月末より対象地域を福島市、南相馬市、双葉郡として開始された。東日本大震災、東京電力第一原子力発電所事故後、全県下での実施が望まれ、平成24年10月より、調査対象地域は県内全域となった。県内52か所の産婦人科医療機関での参加登録、および、出産後は半年ごとの質問票調査を実施した。

結果:

県内52、県外1産婦人科医療機関の協力のもと、リクルートでは妊婦のべ13,134人、父親のべ8,695人が参加登録し、児12,843人が出生した。(いずれも当時の暫定値)リクルート期間中の妊婦の参加者同意率は78.6%、カバー率は48.5%であった。出生後6か月ごとの質問票の返却率は、平成27年6月末時点で88~96%を維持している。平成27年3月までの調査打ち切り数は168件、調査取りやめは370件である。

考察:(研究の限界を含める)

福島ユニットセンターでは、調査を進めるにあたり、放射線への不安(リスクコミュニケーション)、単なる調査では受け入れられない、県内全域での協力体制の確立という3つの課題に対して様々な取り組みを実施した。高い質問票返却率は、参加者のエコチル調査への期待の大きさを意味していると考えられた。

結論:

福島県でのエコチル調査は、概ね順調に実施されている。福島ユニットセンターでは、福島で産み育てることへのサポートを最大の課題とし、また、「子どもの成長発達と環境因子との関連」を明らかにするという確かな知見を未来の子どもと家族にプレゼントしたいと考えている。